

# 経営のヒント



# 快答乱麻

財務・販促・労務情報化など  
覚えておきたい経営のヒントをお届けします。

お答えいただいたのは



(株)インターコンサル  
代表取締役

古庄弘一さん

## 5S活動継続のポイント

**Q** 2年前から5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）に取り組み、月1回の「5S委員会」の継続により事務所、工場、客先作業現場などでの作業環境と社員の意識向上は、期待した効果を得ることができました。しかし、委員会のメンバーが改善ネタ切れによるマンネリ化を懸念しているとの事で、今後効果的な5S活動を維持する良い方法はないでしょうか？

**A** 「5S委員会」を通じ、社員の積極的な活動により維持されていることは、すばらしい事だと思われます。

しかし、ある程度の職場改善が進むと、ご質問のような傾向が出てくるようです。打開策の一つに、経営者視点で、「組織における社内外の現状とそのリスクおよび機会」を抽出し、それらの問題点と優先順位を明確化します。

これらの内容について5S委員会メンバーと情報共有するとともに取

北九州商工会議所専門アドバイザー  
職場改善やISO認証取得支援、教育訓練などの指導が専門

り組みの検討をします。ここで大切なのは、今までの5Sの固定概念を払拭する事です。たとえば、Sの中身を「安全（セーフティー）」、「情報セキュリティ（セキュリティー）」、「スマイル（顧客サービス）」など、組織の日常業務活動の改善効果に結びつきそうなテーマに変更してみる事です。また、活動の進め方は、今まで通りハード面とソフト面の両面からバランスよく改善していきますが、労働安全衛生や情報セキュリティなどに関しては、法規制などの専門的な要素が強くなりますので、5S委員に専門的知識を持った社員の参画が必須となります。さらに社内規定などを含めた労使間の取り決めなどの見直しが発生する事も懸念されますので、経営者の関与度が大きくなる事が予想されます。いずれにしても、これらの活動を通じ、社員のモチベーションを維持するとともに、社会的信頼性向上を目指した改善活動として効果が期待されます。

# そうだったのか！



# 健康



日々の体調管理はどうしていますか？  
本コーナーが今日からの健康管理の参考になれば幸いです。

今月のドクター



大手町いまながクリニック  
院長  
今永知俊 先生

小倉北区大手町13-34ハローパーク大手町203  
TEL 562-2580

## COPD（慢性閉塞性肺疾患）

**Q** 友人は咳が止まらないのでクリニックを受診するとCOPDと診断され、禁煙をするように言われたそうです。私も30年以上たばこを吸っていますので気になります。COPDとはどんな病気なのか教えてください。（小倉北区 男性 57歳）

**A** COPDは従来、慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気がこれに含まれます。COPDはおもに喫煙習慣を背景に中高年になって発症する肺の生活習慣病で、高齢になるほど多くなります。COPDになると肺に慢性的な炎症が起こり、肺への空気の出入りが不十分になり、息切れ、慢性的な咳や痰などの症状が現れます。ぜんそくのような症状を伴う場合もあります。息切れは初期には坂道や階段を上る時などに気づく程度ですが、進行すると日常のちょっとした動作でも息苦しくなり、行動が制約され、生活の質

を大きく低下させます。また、行動が制約されることによって活動性が低い生活となり、高血圧症や糖尿病のような慢性疾患を合併する可能性も高くなります。COPDの治療は薬物療法や呼吸リハビリテーション、酸素療法など、幅広い治療が可能になっています。しかし、治療において最も重要なのは禁煙することです。喫煙者は非喫煙者に比べ、肺の機能は急速に低下していきますが、禁煙した時点から低下が緩やかになります。長い喫煙習慣で禁煙が難しく思われるかもしれませんが、禁煙外来で禁煙治療を受けることもできますので、今すぐ禁煙されることをお勧めします。

